

<加西病院の状況とその対応・考え方>

勤務医の不足は、今や社会問題化し、全国的なひろがりを見せており、北播磨圏の病院固有のものではありません。医師確保について加西病院だけの秘策等はなく、全国の自治体病院同様に悩み、対策を求めているといった状況にあります。

加西病院は、これまで続けてきた努力を重ね、今後とも医療の充実と医療の質を高め地域の中核病院としてレベルアップしていきたい。もし、中核病院構想が実現したときには、加西病院が中核となれるよう努力していきたいと考えています。

神戸大学の中核病院構想の提案は、あくまで総論的なものであり、具体的な提示はありません。したがって、既存病院の今後についてはまったく示されていません。

この提案を受け入れた場合のメリットとして、医師確保の安定化が図られ、専門・高度医療が行われ、救急医療の充実により優れた医療の恩恵が得られると考えられます。一方、デメリットは、地域間の医療提供にきしみが生じかねないこと、医療アクセスの不便、高額な初期投資と多額の税負担が必要、中核病院以外では医師確保はより困難にといったことが挙げられます。

中核病院構想は、市民生活と深く結びついた病院の将来に関する問題だけに、患者・市民の医療への現状



理解と志向、病院の将来構想とその実現性、救急医療など地域医療提供体制、中核病院の場合の経済的負担、さらには、他市町との関わり、より広域な地域における医療供給体制の構築といった多岐にわたる解決すべき課題があります。

最終的には市民の意思、市政や医療行政の方針等総合的に勘案した市の将来ビジョンに基づく政治判断が必要となると思われ、そこに至るまでの過程で十分な分析、検討、調整が必要とされ、慎重に吟味しなければならないと考えています。

<近隣市町村の対応>

- ・統合が避けられないのであれば、南北に2箇所の拠点病院をおくことができれば。
- ・共倒れを避けるためにも大学側の意向に沿いベストを尽くすべき。
- ・将来的に統合は考えざるはえないが、既存の自治体病院の方向性なども首長間で議論すべき。
- ・北播磨の南北にそれぞれ核となる病院を置くべき。北の拠点を市立西脇病院が担えたら。
- ・またとないチャンス。丹波や西播を含めたもっと広域でも考えるべき。

<経緯>

- 平成19年2月 北播磨公立病院協議会で神戸大学からの提案があったとの報告。
- 平成19年3月 市長・病院長が神戸大学より病院構想の説明を受ける。
- 平成19年4月 北播磨公立病院協議会（臨時、開設者のみ）地域医療体制の協議。
- 平成19年5月 中核病院構想の全体構想を神戸大学から説明をうける。
- 5月19日 神戸大学の中核病院構想の報道。
- 平成19年6月 加西市議員協議会に中核病院構想の説明。
- 平成19年8月 北播磨公立病院協議会
- 平成19年8月 北播磨県民局長協議